





夫 加藤義春

それじゃ仕事に
行つて来るよ

気を付けてね

妻 加藤詩織





いっしょにしゃい



お義父さん

義父 加藤宗男



!







義父は大らかで
優しい人だし……



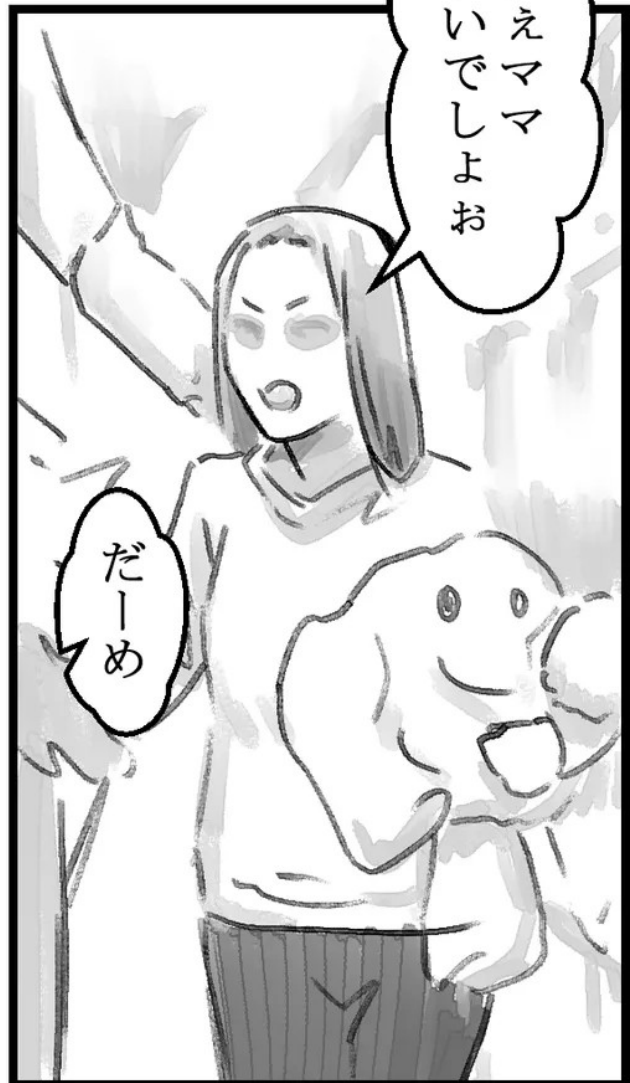
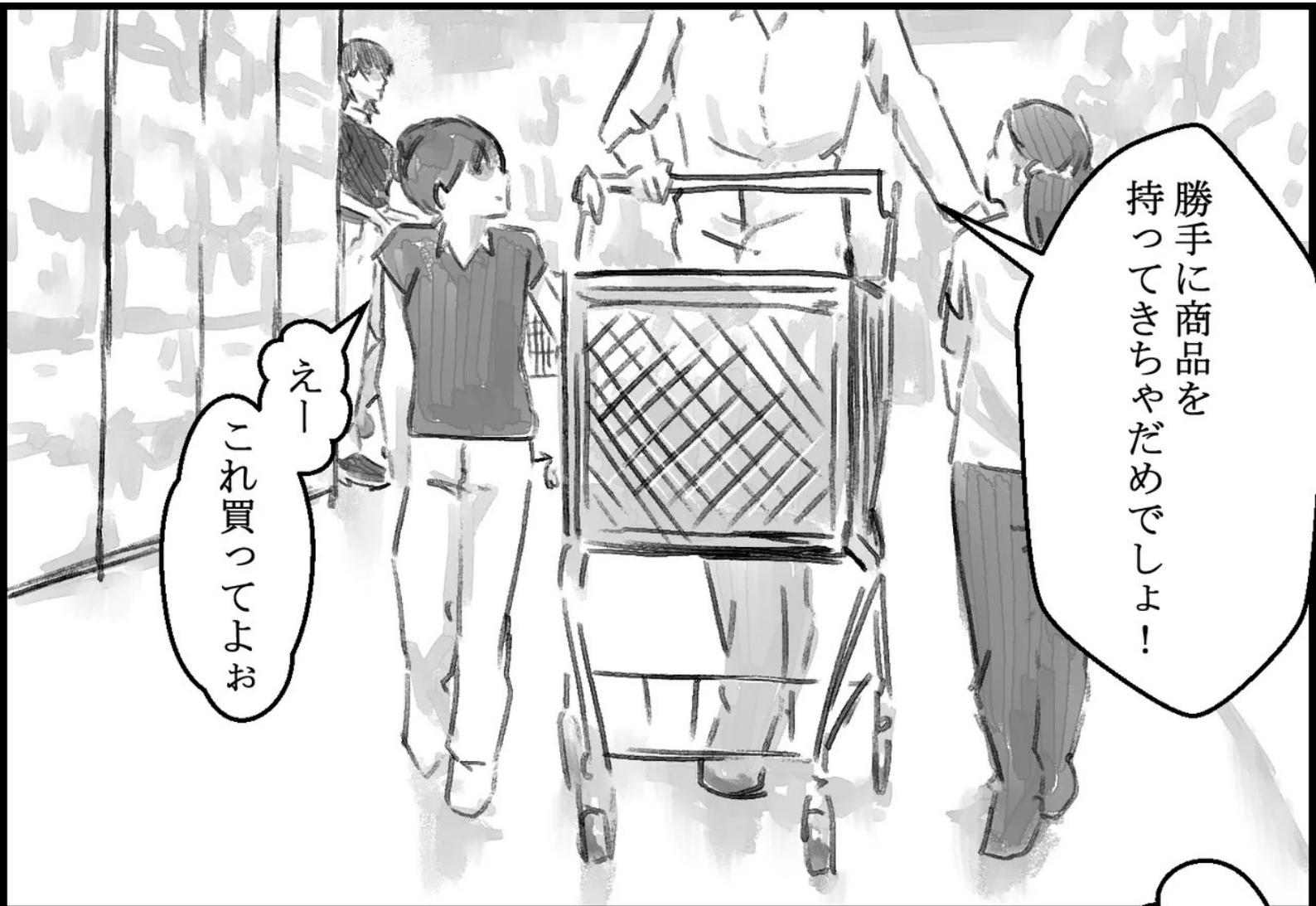
そう言った心配は
杞憂だった



新築の建築費用を半分以上
工面してくれた

家族三人での生活
何の不満もない……







大学で付き合い
卒業後に結婚

今年で十年目になる

それなりにセックスの
回数は重ねてきた

でも子宝に恵まれることなく
気が付けば三十四歳……

もう若くない



焦燥感は募るばかり……

それなのに最近は見えて
セックスの回数は減ってきている

チャアアアア

週に一度あるかどうか……

多分だけど夫は子供を諦めて
いるような気がする



私は無理……私は……
子供を諦めきれない……



そう思っ
ていたの
に……

え……

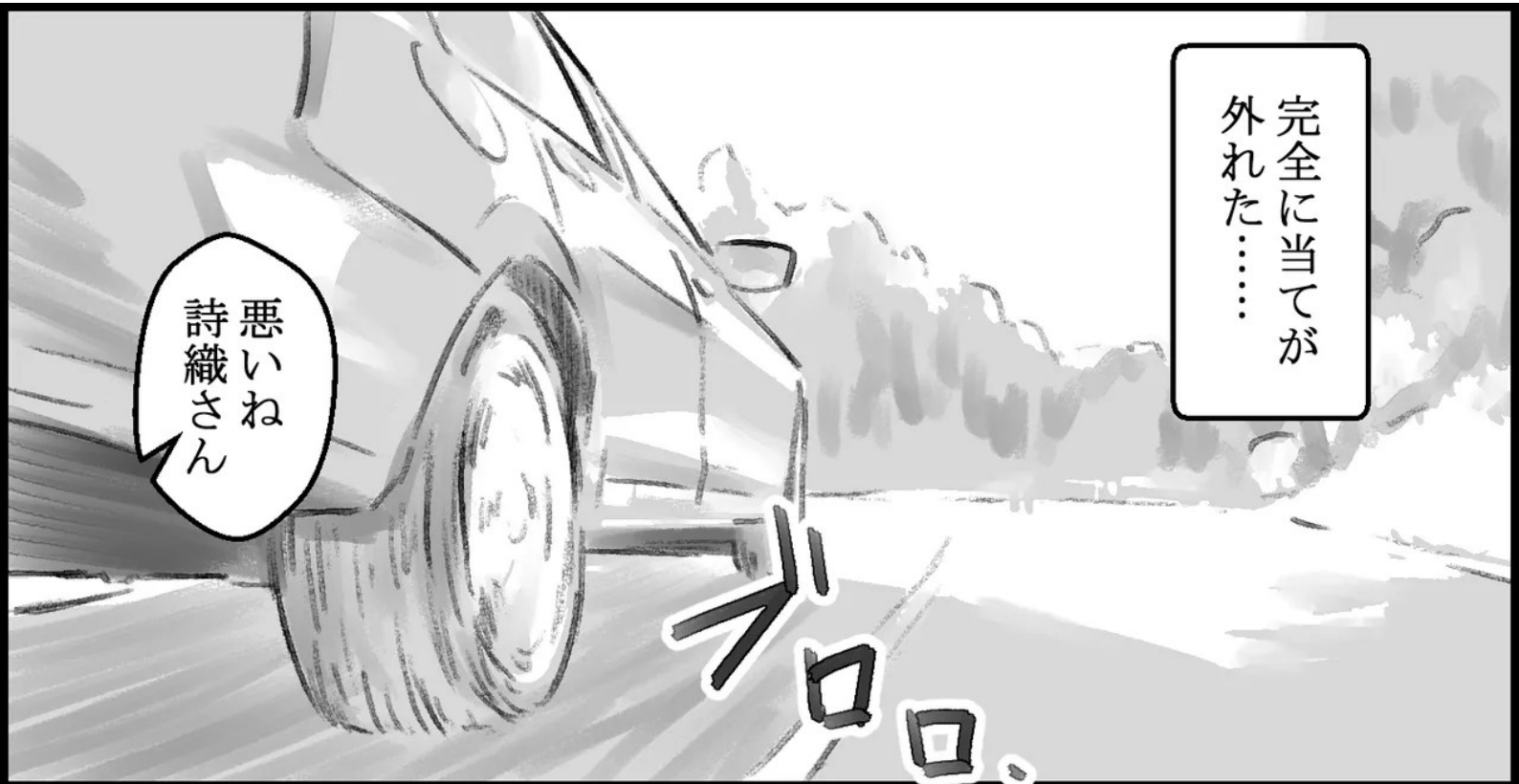
仕事？

せっかくの休
みだったん
だけ……

悪いけど温
泉旅行は
父さんと
行ってき
てよ

キャンセル
するの
もつた
いな
いし
ね

……うん



完全に当てが
外れた……

悪いね
詩織さん

ブロ



こんなじじいと
二人旅とは……

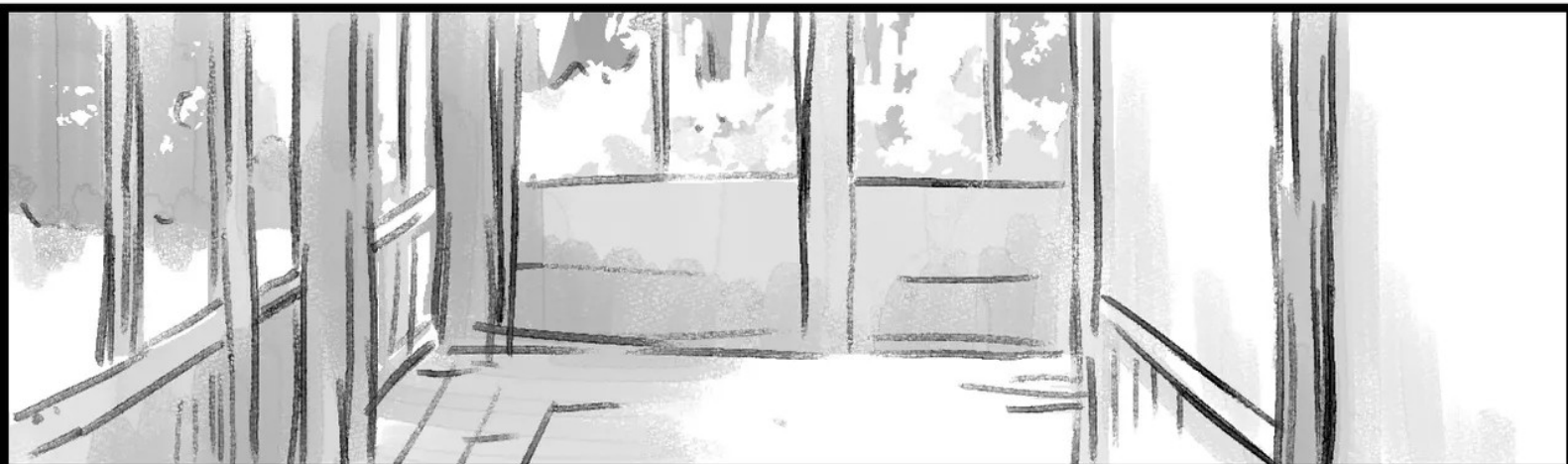
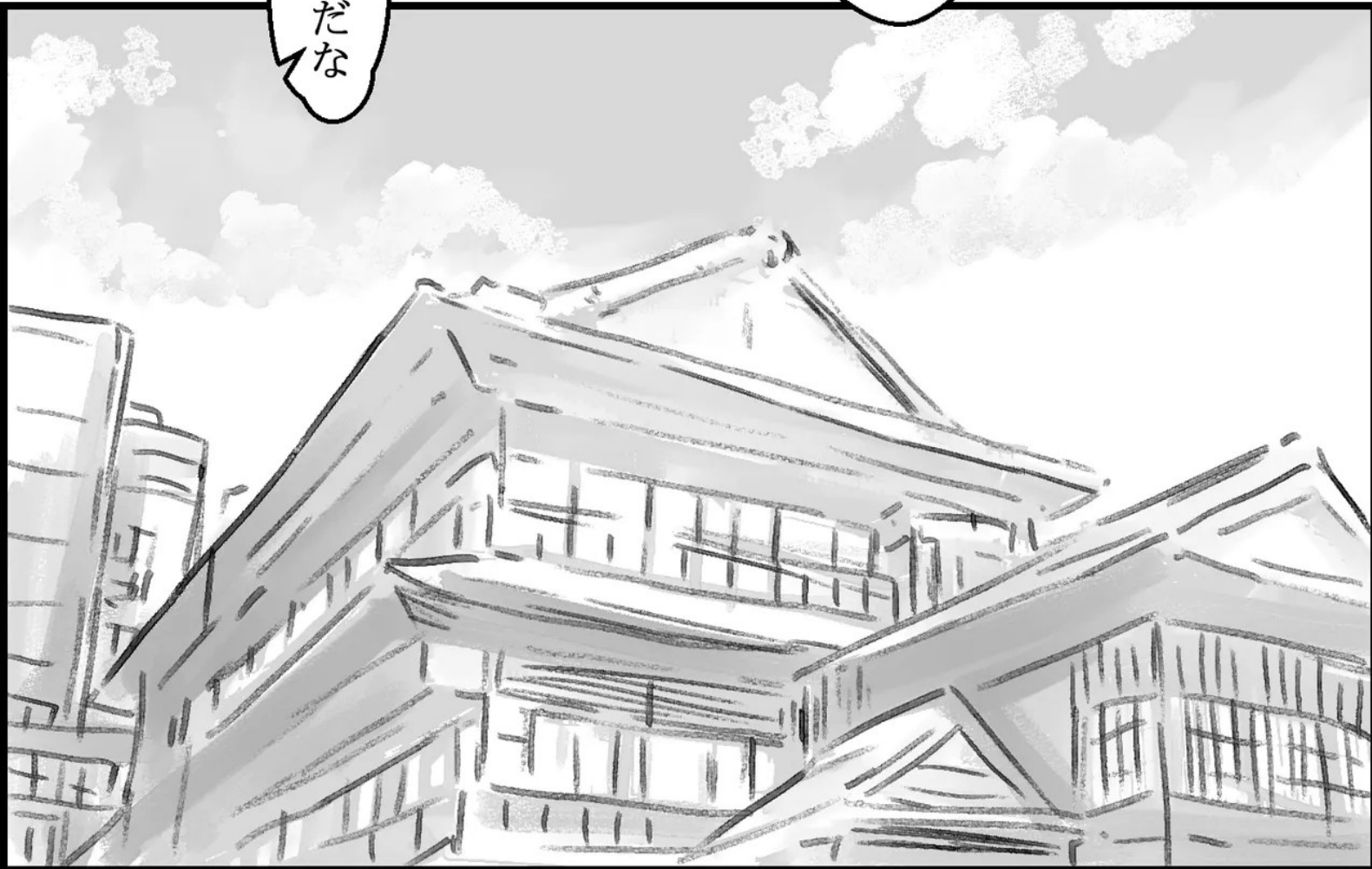
そんな事
ないですよ

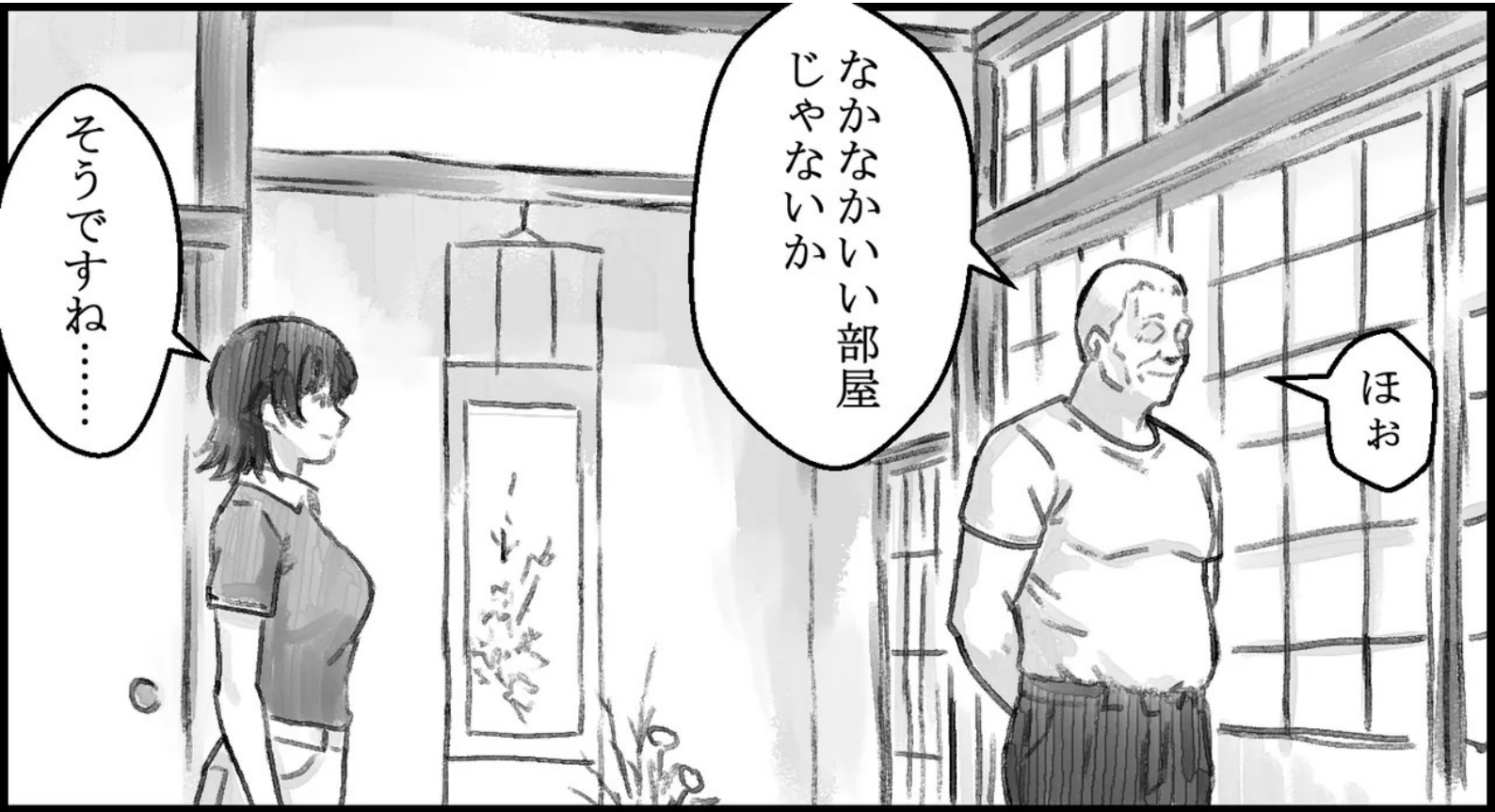
お義父さん

仕事の義春さんには
悪いけど……

せっかくの旅
行
楽し
まし
よう！

そうだな





そうですね……

なかなかいい部屋
じゃないか

ほお



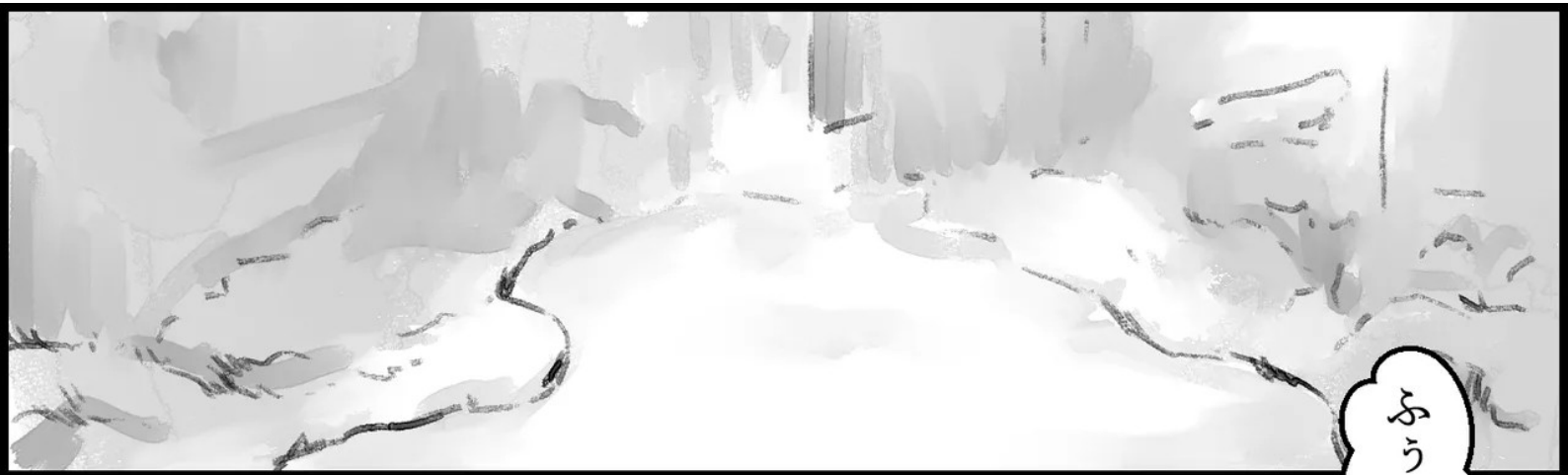
お義父さんと
一緒の部屋……

……

気にすること
ないわよね

家族なんだし……





ふう……

気持ちいい♡



キッポ



できれば義春さんと
来たかったけど……

今回は仕方ないわね



次はきつと――



詩織さん

いいお湯だった

お義父さん

いい露天風呂だったよ

ワシもちょうど今
上がったところだな



それにしても
詩織さん

浴衣がよく
似合ってるのお

天女と見間違えたわい

え！
そ
そうですか？

もう！
お義父さん
たら！



お母さん！



あからさまな
おべっか

まあ……悪い気は
しないけどね



詩織さん？

どうかしたかね？



いいえ

なんでも……



お父さんは？

先にお部屋で
待ってるわよ

一緒にご飯
食べましょうね

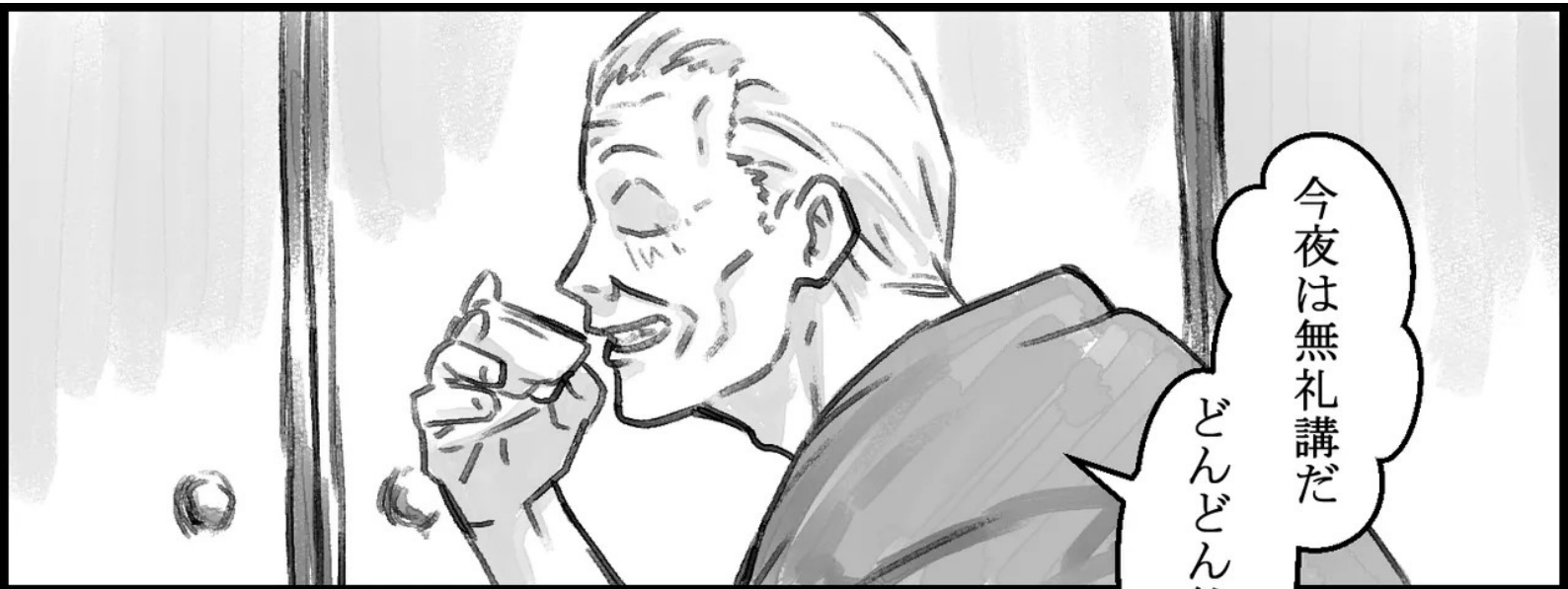
私は母親になれる
のだろうか？

不安になる……

はは
そうなのか

はい
それで――





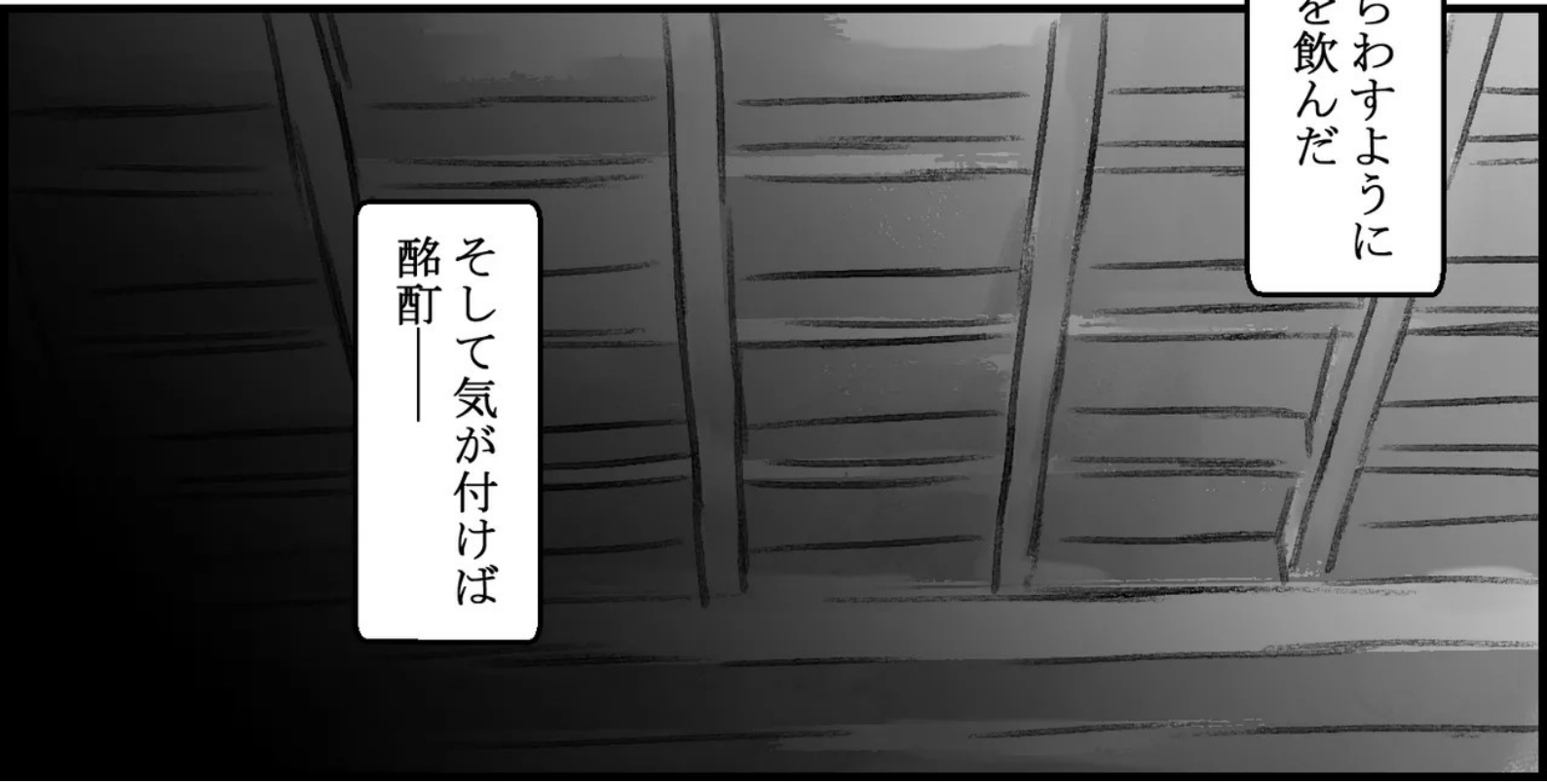
今夜は無礼講だ

どんどん飲もう

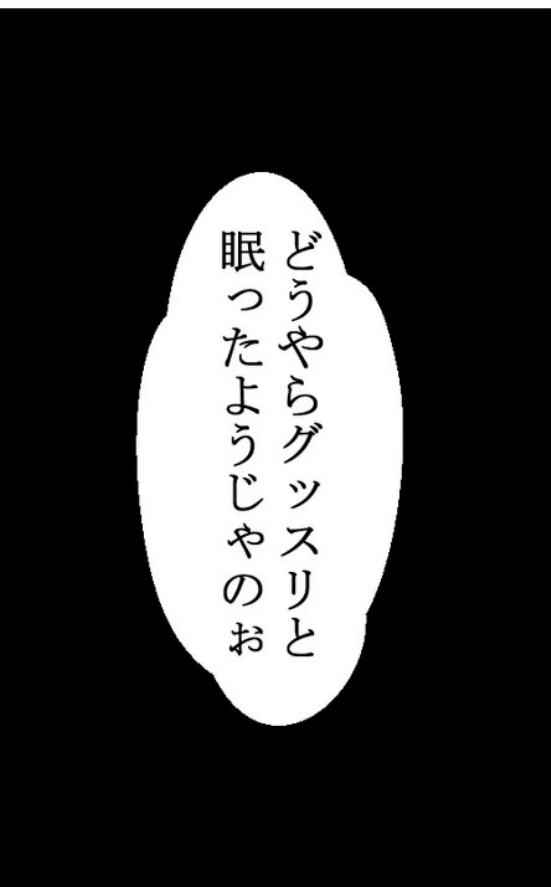


はい！

不安を紛らわすように
私はお酒を飲んだ



そして気が付けば
酩酊——





ふふ♡

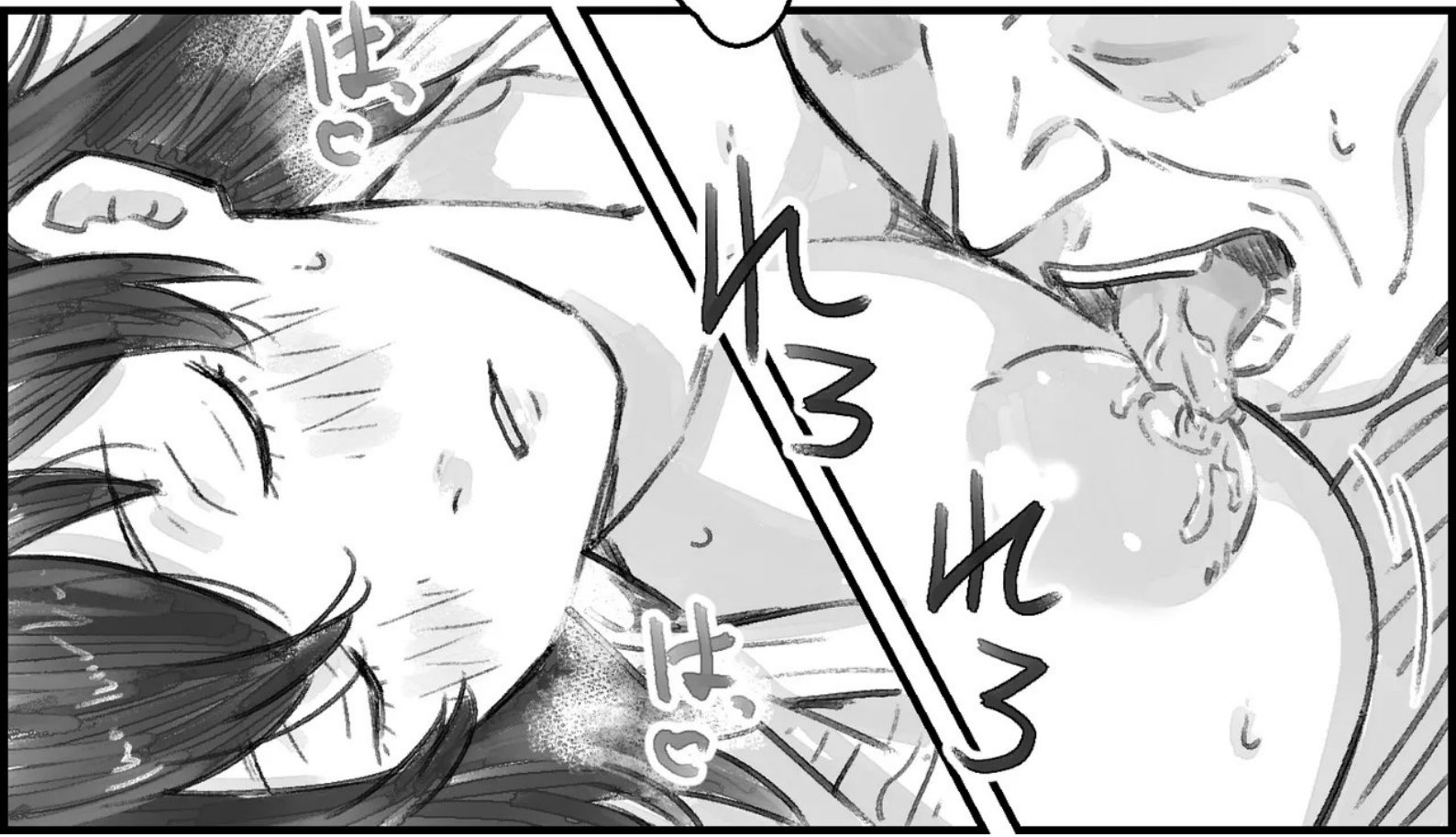
たまらんな

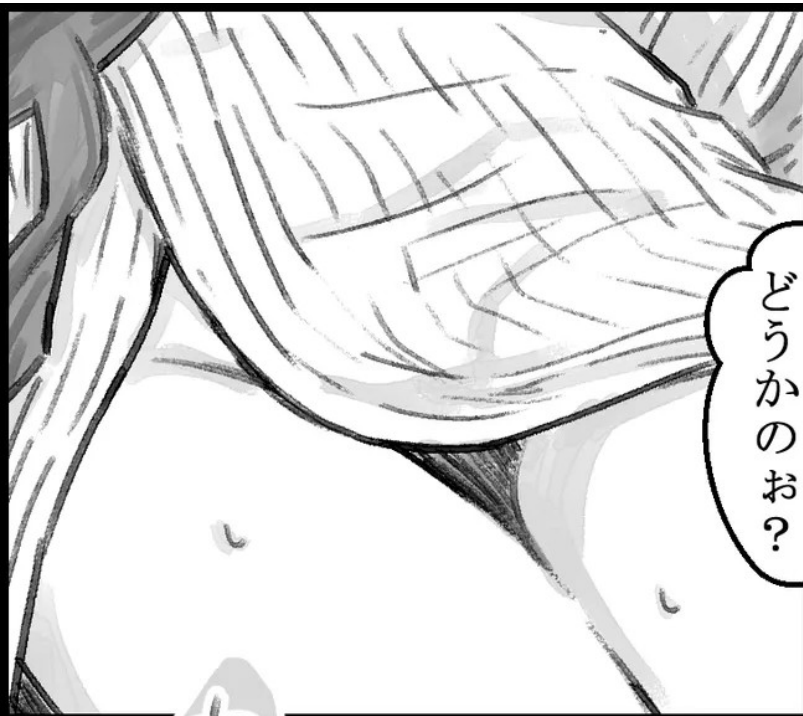
たまらん！

詩織さん

ワシはもう
限界じゃよ







下の方は
どうかのお？



おっぱいは満点♥



おほ♥

あ♥

こりやすい

すつかり

トロトロじゃ♥

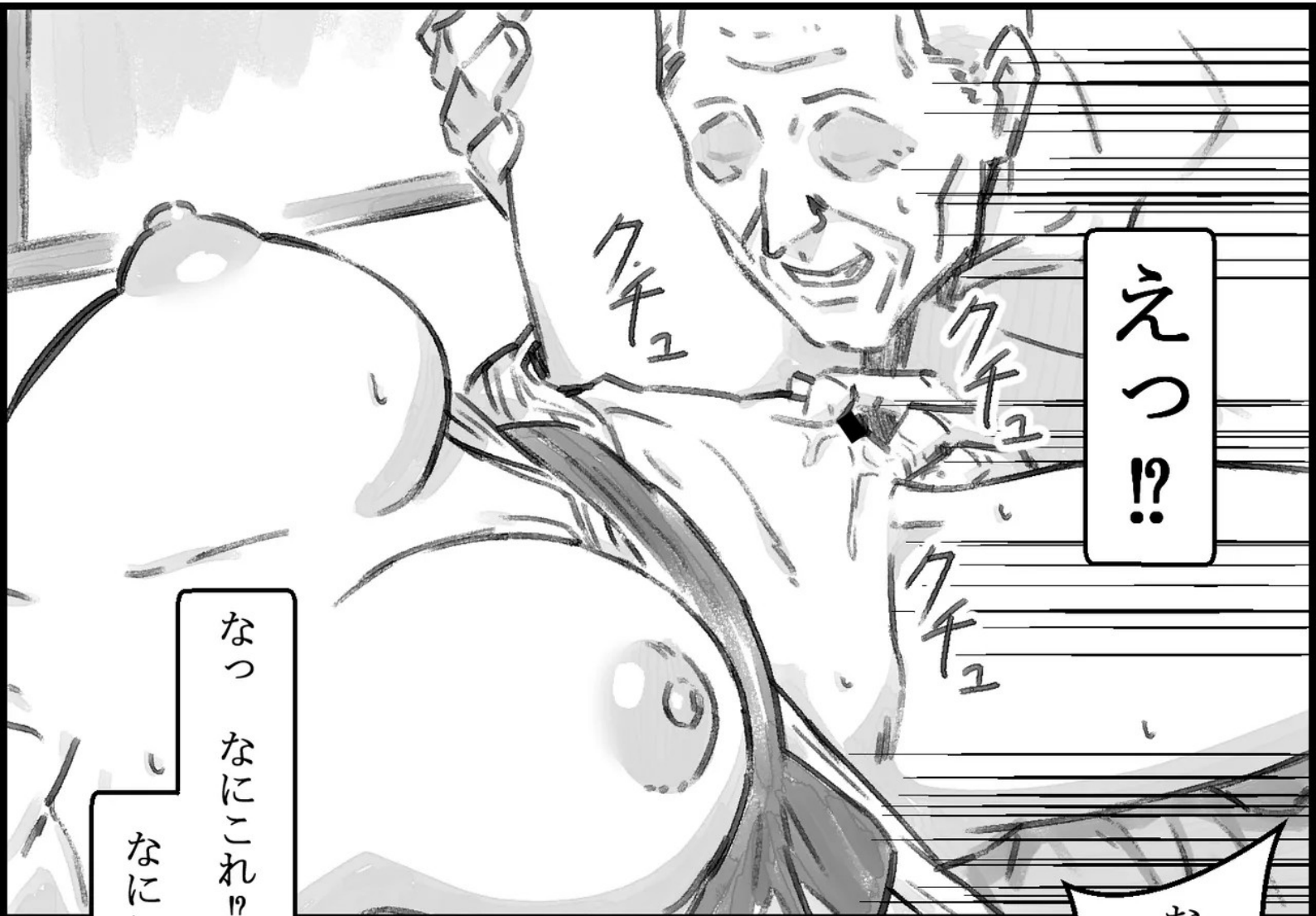
はぁ
ぐ

ここがいいのか？

我

気持ちいい

今日の義春さん
すごく――



えっ!!

クチュ

クチュ

クチュ

なっ
なにこれ!!

なにこれっ!!

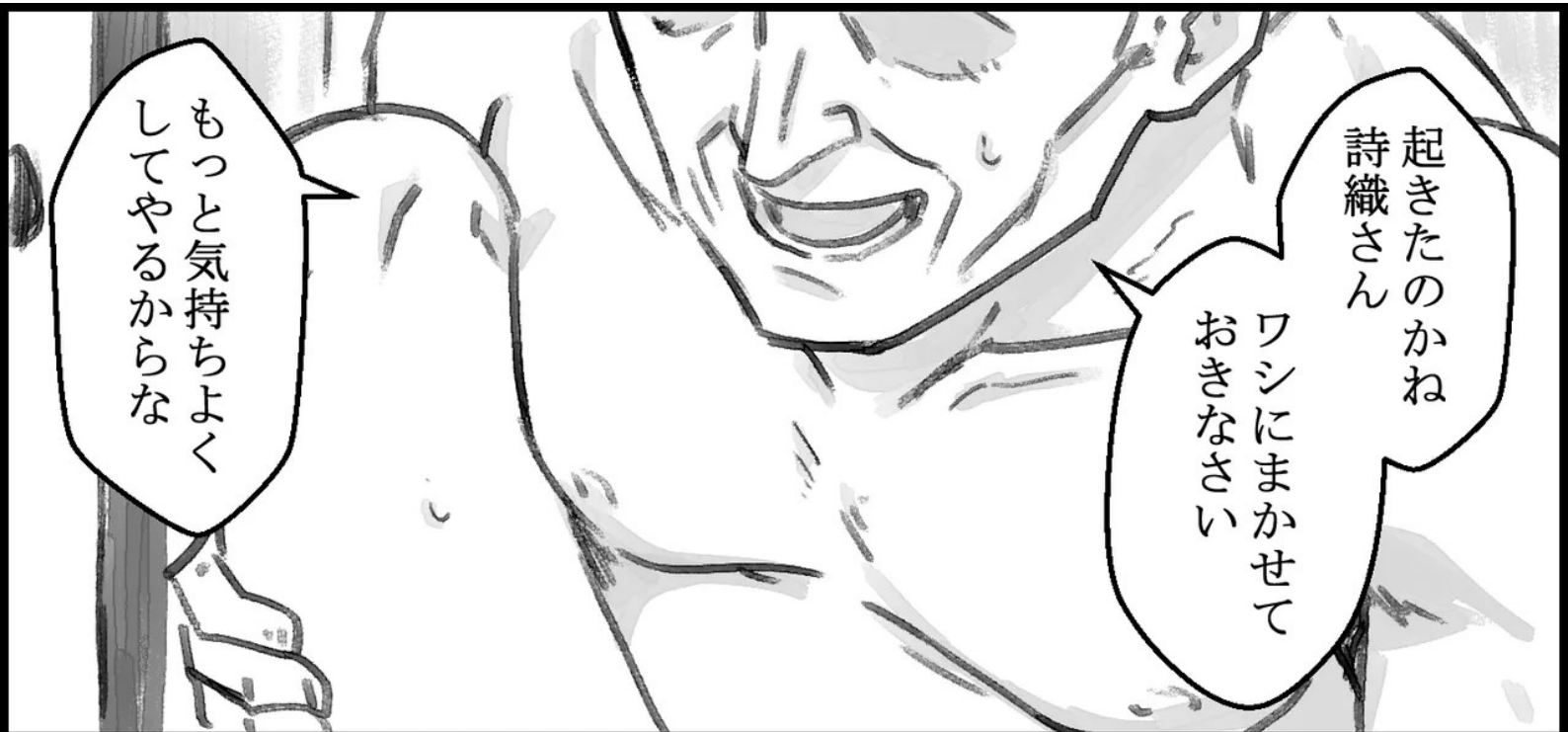


お
お義父さん!!

な
何をして
いるんですかっ!

はっ

はっ



起きたのかね
詩織さん

ワシにまかせて
おきなさい

もっと気持ちよく
してやるからな

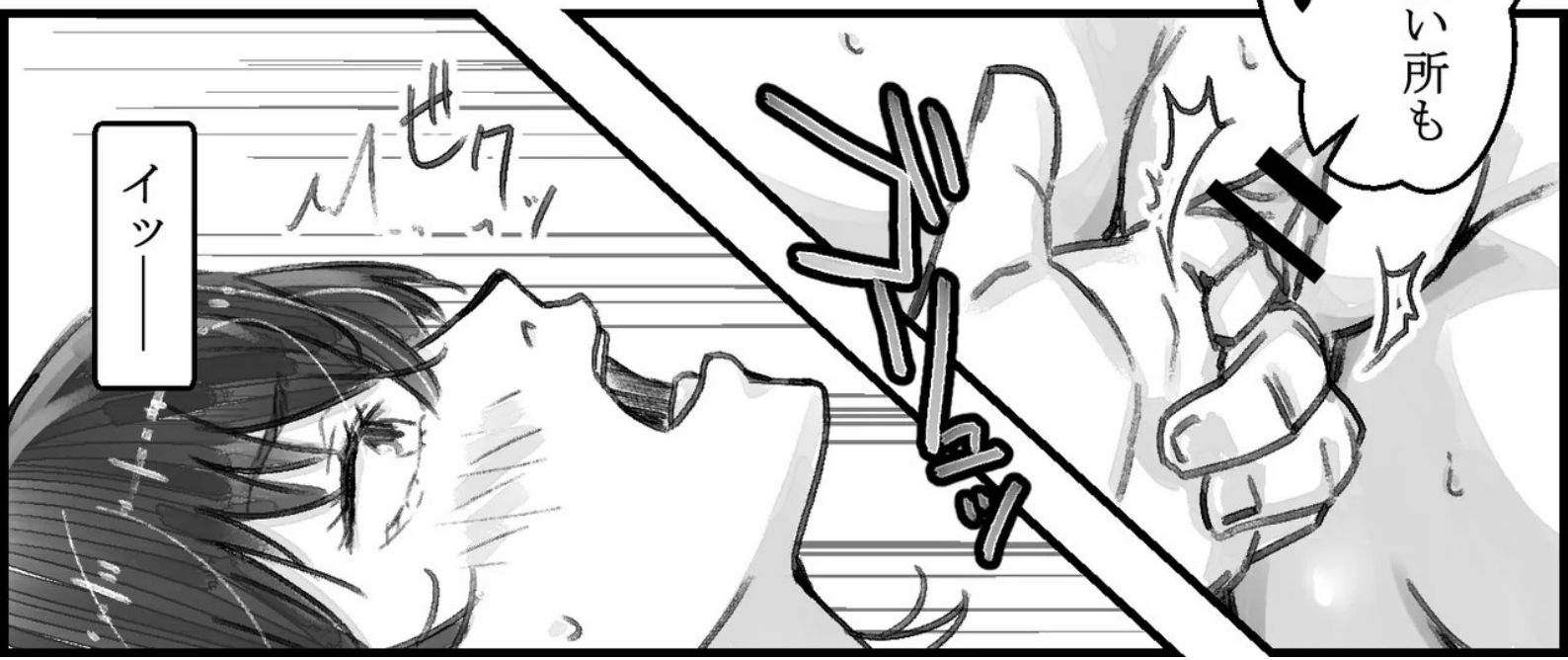


ババカな事
いわないで！

あれ？

ダメだ

体に力が――





イ
イカされた♥
こんな簡単に♥



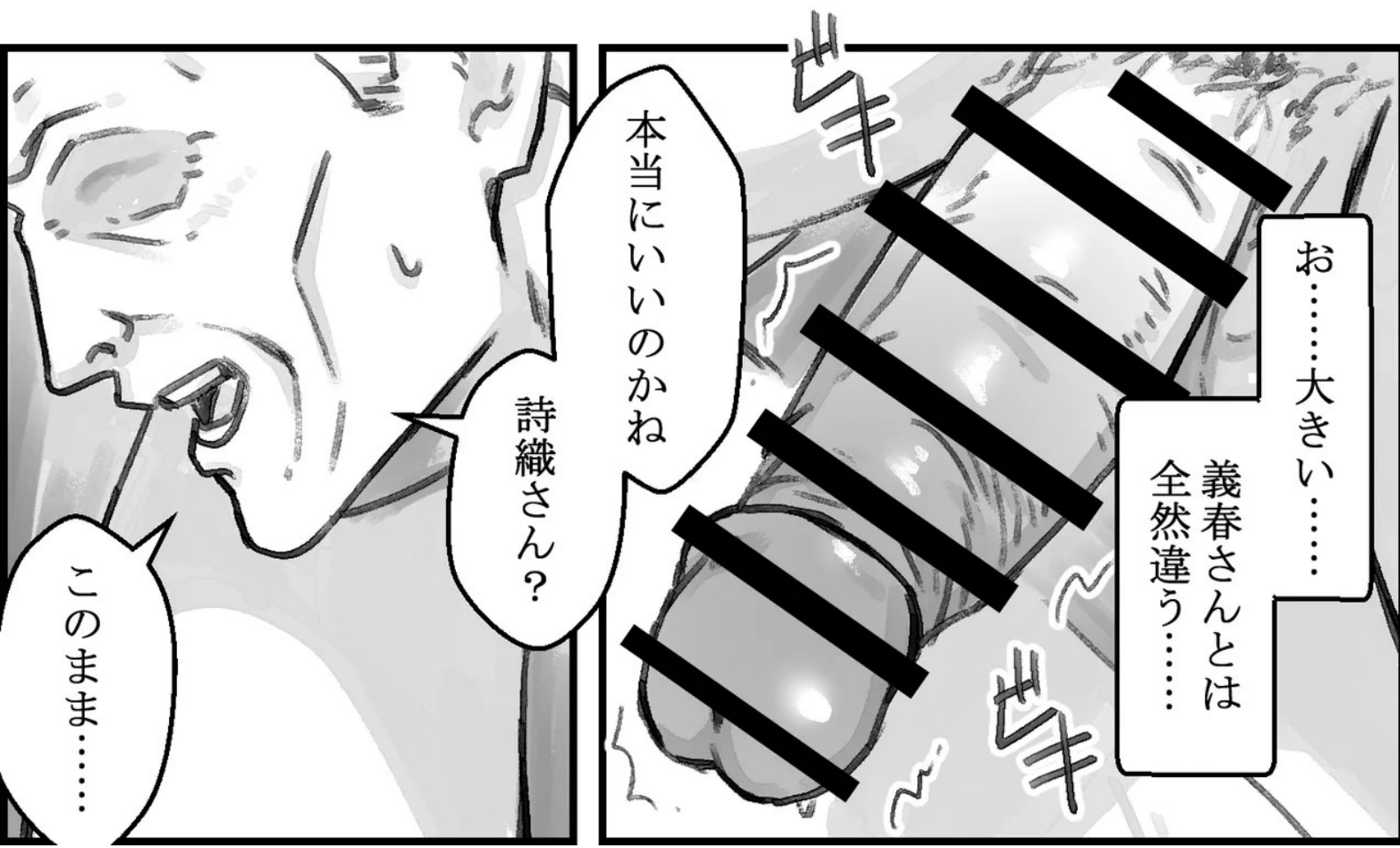
あの人とのセックスで
イッた事なんてないのに



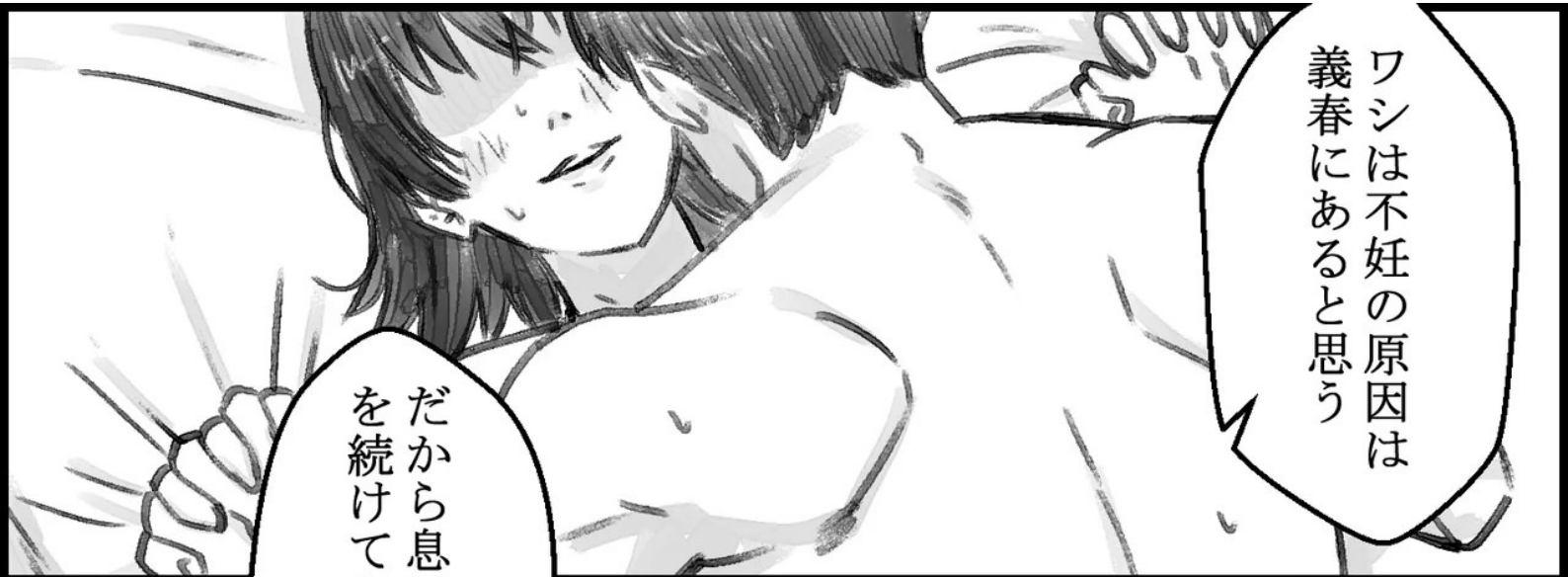
よりもよって
お義父さんに……



ふふ♡







ワシは不妊の原因は
義春にあると思う

だから息子とセックス
を続けても無駄だ



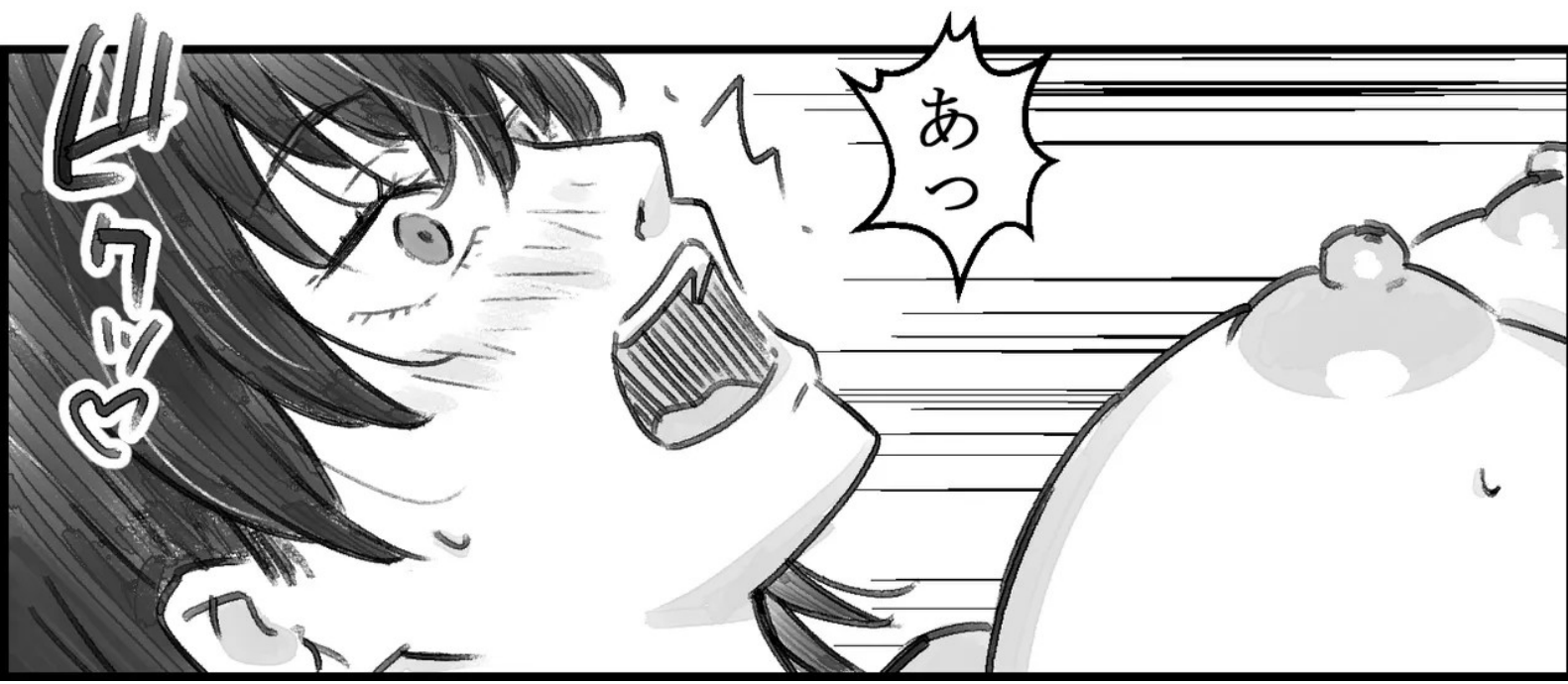
そ そんな
こと……

先ほども子連れの母親を
羨ましそうに見ておったなあ



ワシとしてもこれ以上
詩織さんに不憫な思いを
して欲しくないんじやよ

だからワシが協力
しようというのさ







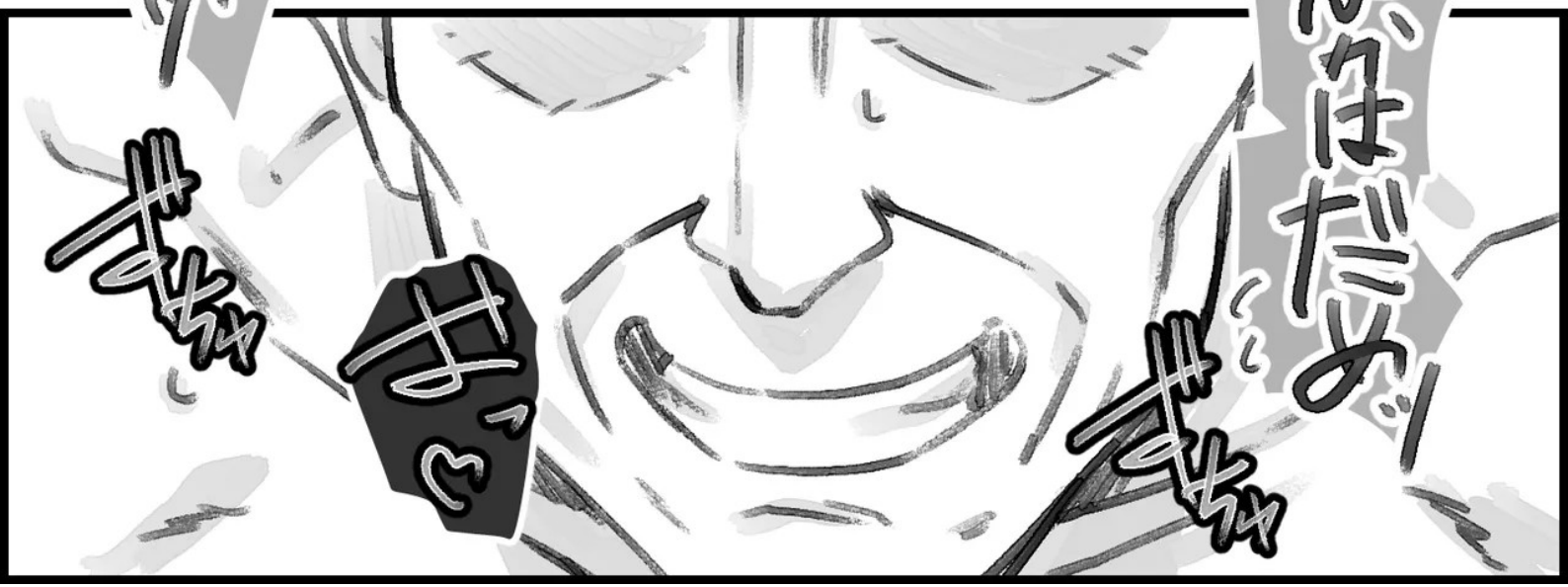
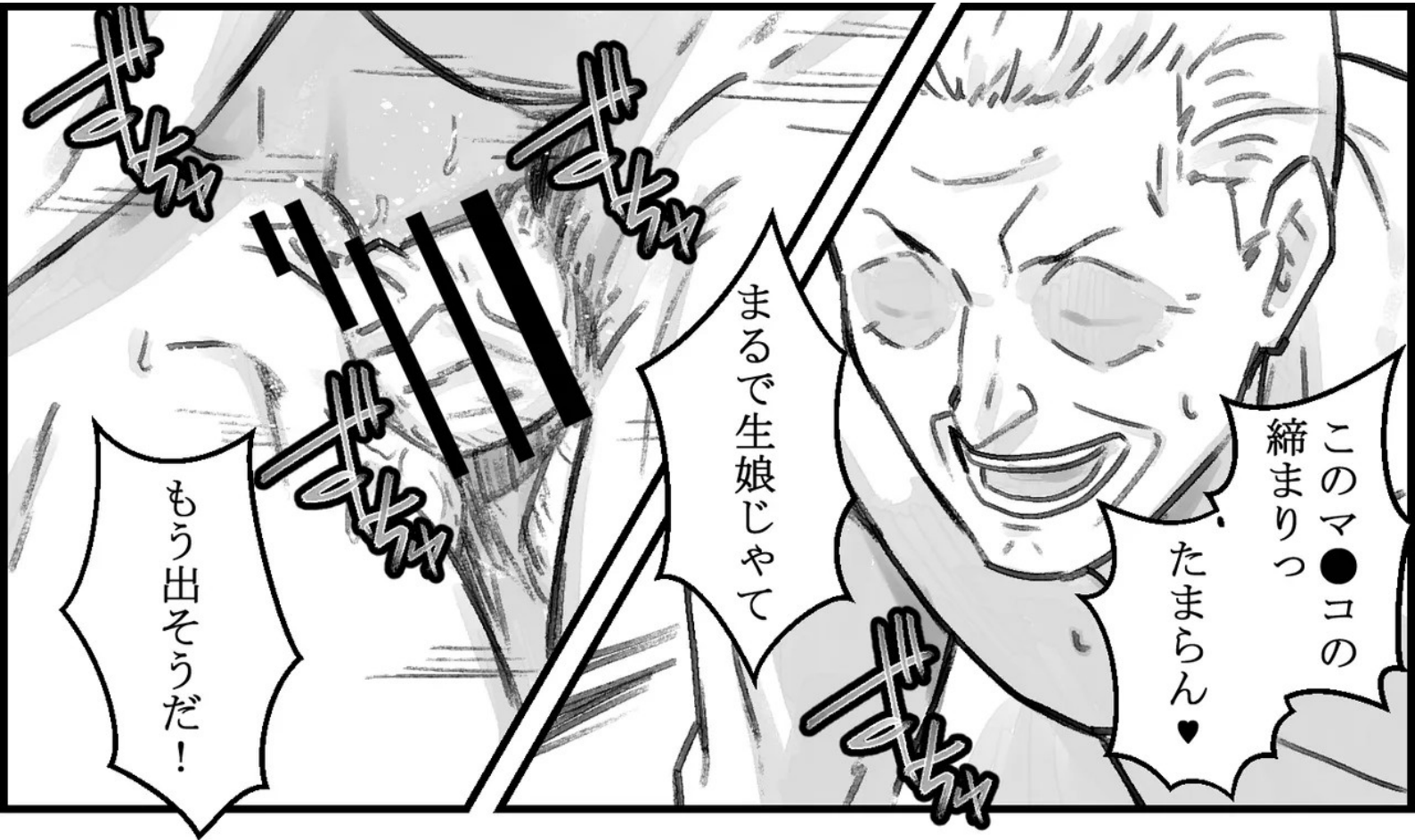
ふ 太っ！

嘘でしょ！

絶対に届いちゃダメな
所まで来てるーっ！

こ これって本当に
お●んちんなの！？









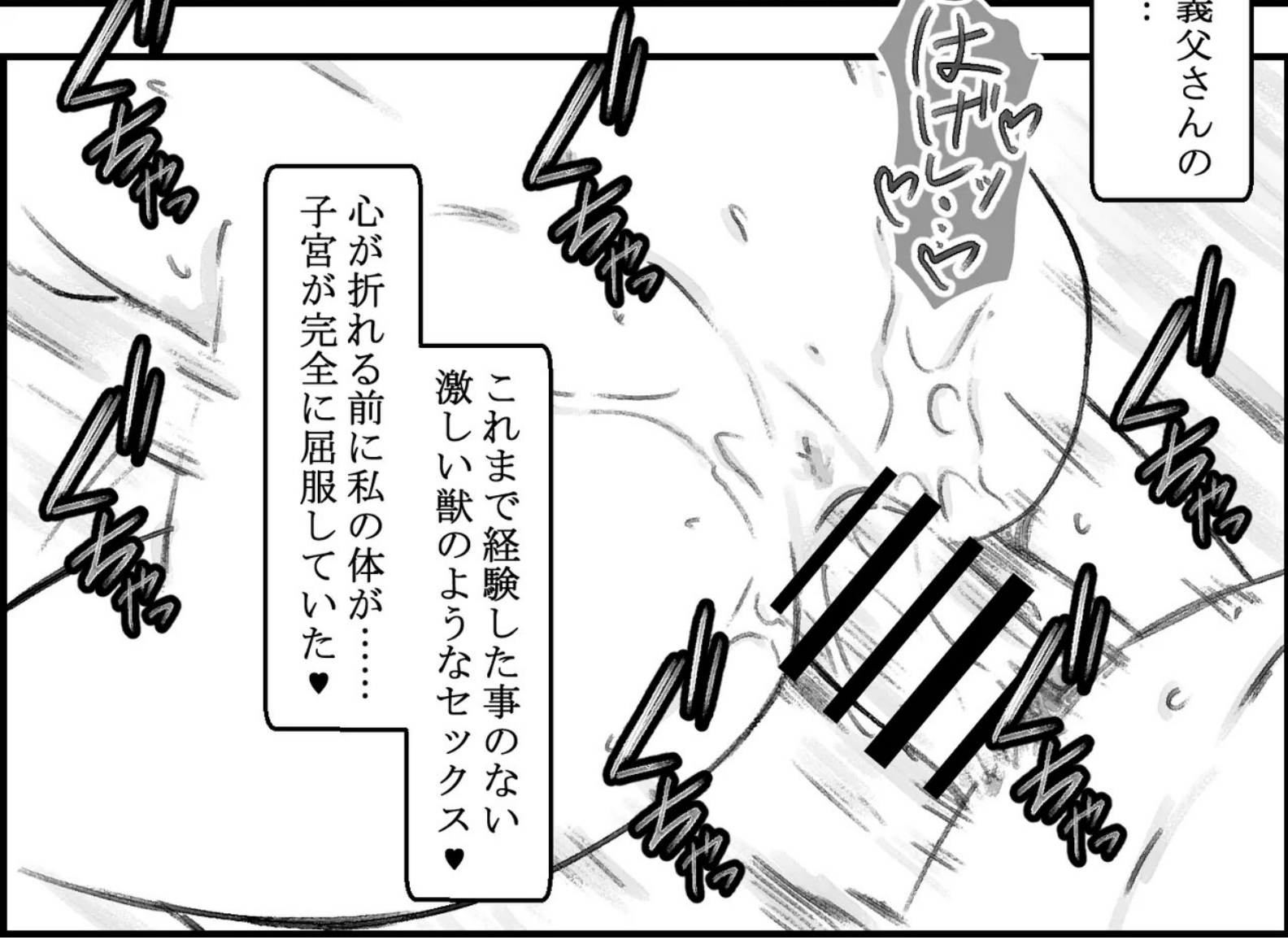
すごく濃いものが
私の膣内にキテる♡







もう後はお義父さんの
言いなり……



心が折れる前に私の体が……
子宮が完全に屈服していた♡

これまで経験した事のない
激しい獣のようなセックス♡

義父にチ●ポを
突っ込まれ

悦ぶメス豚

それが今の
私だった♡

どうだ詩織さん

ワシのチ●ポの方が
義春よりもいいだろう？

私をとことん
堕とすつもりだ！

なんて意地悪な
質問……最低！



よく言った

褒美じゃ
受け取れ♡





ふう♡

たんまりと
出たわい♡

はふふ

はふふ

どうじやった
詩織さん

ワシのチ●ポ
の味は？



訊くまでも
ないか♡

ニトロキ...

こうして私はお義父さんの
女になってしまったのだ♡

その通りだった……

はあ

はあ

あゝあゝ



そっちは
どうだい

詩織

え
ええ
ええ♥

お義父さんと
楽しんでるわ♥

ならよかった



義春さん

あと少しだけ
待っていて♥

絶対に戻るから♥

あなたの妻に
戻るから……♥